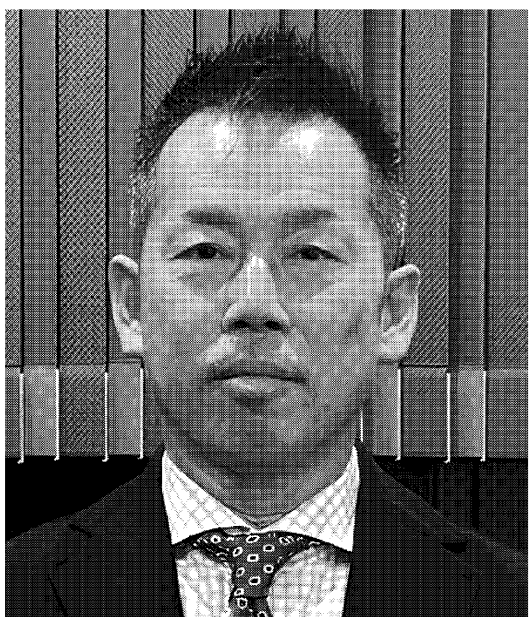


埼玉県有力企業 わが社の戦略

シタラ興産

代表取締役

設楽 竜也 氏



久保井塗装

代表取締役

窪井 要 氏



新報国マテリアル

代表取締役社長

成瀬 正 氏



スピード重視で現場力を高める

「最近注力している」とは。2025年は、米国の関税の発動や地政学的リスクが高まるなど、さまざまなことがあった。そのような環境下において、短期的視点にのみとらわれるのではなく、やるべきことは中長期的視点に立ってしっかりと考える。例えば値上げに際しても、大変ありがたいことに取引先には理解をもらいつつ価格適正化に取り組んでいる。また長年努力してきた研究開発や新しい分野への投資、必要な設備への投資は引き続き、ベイス事業を安定して続けながら新しい取り組みへ進出したいと考えている。具体的には、これまで問題とならなかった長

期使用中の熱膨張変化にたいしては、産業界技術総合研究所(産総研)と5年以上にわたる共同研究の結果、汎用材では1年で数ppm(1ppmは1mmの素材が1mm伸びる)程度の寸法変化だが、当社はほとんど寸法変化しないことが立証され、主力製品「インバー合金」の確かな信頼性の一つとして、さらなる普及の後押しになればと考えている。ほかに益々ニーズが高まるゼロ膨張インバー合金の差別化に必要な高精度熱膨張測定の実現に向け、昨年12月にレーザー干渉式熱膨張測定器を新たに導入し、ゼロ膨張ガラスで求められる測定精度を目指して既に戦力化している。

「一年始の社長方針では『現場力を高める』ことを大きく打ち出しました。『品質改善・納期短縮・コストダウン』という基本・原点に立ち返り、現場力と技術力の底上げを図りたい。昨年は三重工場に勤務する全社員と面談を行った。そこでは日頃社員が考えていることや会社として必要な改善部分など様々な生の声を聞き、自分からも当社の

今後の方針などを話した。沢山の収穫があったが中でもコミュニケーション(風通し)を良くすることの重要性を感じた。上司と部下の間でも、お互いの仕事をリスペクト、尊重した上で本音で議論し、それぞれの役割(機能)を果たして欲しい。

「誰もが挑戦しやすい環境作りも大切だ。現場社員が考えていることや会社として必要な改善部分など様々な生の声を聞き、自分からも当社の

冷房機を設置したが、本意は新しい仕上現場や熱処理工場にも暑熱対策を目標だ」

▲三重工場での注湯作業

限りある資源を生かす新工場

「新工場が2026年4月に稼働を開始します。『限りある資源を大切に使う』『モノづくり』をテーマにカーボンニュートラルやサーキュラーエコノミー(循環社会)を意識した構成になっている。2026年3月に完成予定で、ロボットやAI(人工知能)の活用により省力化や活人化を進め、使

家発電と上手なエネルギーマネジメントにより従来の半程度まで外部からの電力購入の抑制を目指す」

「超高塗着塗装システム」の活用や省人化の具体的な対策は、

「製造ラインは成長型中小企業等研究開発支援事業(Go-Tech事業)の支援で開発した『超高塗着塗装システム』の活用や省人化の具体的な対策は、

△△を実現する。自動車を中心としたプラスチック小物部品(金属も塗装可能)に使用するエアー霧化塗装で、塗着効率85%で高品質な塗膜を実現したシステムだ。研究開発で検証した膨大なデータを活用して製造工程の効率化を図るとともに、ロボットとAIを組み合わせた自動検査装置を導入し、検査工程でも省人

工程手順を編み出した。これにより新工場の立ち上げに当たって、人員確保に悩まされることがなく新工場の立ち上げができる見通しだ。また、既存の生産ラインでは新たに防衛庁関連の製品などを手掛けていく予定だ。

「新たな塗装技術の開発も進めています。『鶏舎・豚舎や医療機関など実効果が必要な現場のための抗ウイルス塗装の開発』が、25年の9月にGo-Tech事業に採択され、新たに研究開発を開始している。

東京農工大学や大手食品メーカーなどと連携して開発を進めており、エビデンスに基づいた技術開発を追求する。鳥インフルエンザや豚熱ウイルス(CSFウイルス)など

家畜の感染症は農家経営の圧迫などを招き、社会的な課題となっている。当社の技術開発で被害の軽減に貢献していきたい」

▲チームで新工場の生産工程を検証する

レガリア完成間近、埼玉県密着の企業へ

「一般・産業廃棄物焼却処理施設『レガリア』の完成を間近に控えています。『現在、埼玉県深谷市に建設中の『レガリア』の準備は着実に進んでおり、今年8月末には完成の予定だ。足かけ10年近い準備の年月がかかった中で、新たな施設への経営面での期待はもちろんあるが、何より『諦めず」

夢を追って来て良かった』という思いでいっぱい。やはり準備期間中は、前に進んでいると思う日と足踏みしているのではないかと不安になる日があった。それでも、レガリアが絶対的に建設する、少しの妥協もしたくないという考えをぶらさなかつたため、形になるまで持つてこられたと思う。併せて

周囲の協力もあったからこそで、120億円のシンシケートローン(協調融資)を組み立てて頂いた金融機関には、企業として成長する姿を見せた『支援をして良かった』なと思ってもらえるようになった。地元の住民へは4回ほど施設建設に関する説明会を開いたが、批判は無くむしろ応援の言葉を直接かけて貰った。自分自身、20代の頃は先代の社長(父)が輝けるように支える一心で必死に仕事をしてきた。ただ自分が社長に就任し立場が変わると、周りに

理がでない事態が発生した。そういう経験もあり、やる気のある社員が存分に仕事の出来る施設として、日量最大3300トンの廃棄物を焼却し、生まれたい熱を回収して毎時3200キロワットの電気を作れるレガリア誕生に大きな期待がかかっている。

「今後の展望は。『まずはレガリアが完成し軌道にのることが目標。自分のやりたいことに皆が賛同してくれたことを胸に高い付加価値を持つた、役に立つ施設にしたい。2035年のステージアップを一回図っていい』」

深谷市だけでなく埼玉県を代表する廃棄物処理の企業として認知してもらえ、う会社

▲8月の完成に向け着々と準備が進むレガリア

企業データ

▷所在地=埼玉県深谷市折之口1788の1、049・574・0310▷
資本金=1000万円▷従業員数=約115人▷設立=1990年(平3)4月▷URL=https://www.shitara-kousan-group.co.jp/

企業データ

▷所在地=埼玉県狭山市中新田1083の3、04・2958・5763▷
資本金=5300万円▷従業員数=約20人▷設立=1965年(昭40)1月▷URL=https://www.kuboitousou.co.jp/

企業データ

▷所在地=埼玉県川越市新宿町5の13の1、049・242・1950▷
資本金=1億7550万円▷従業員数=約100人▷設立=1949年(昭24)10月▷URL=https://www.shst.co.jp/